

2020 年8月1日

ほしぞらサロン 2020 年6月議事録

文責:石橋 愛理

日 時: 2020 年 6 月 27 日(土) 18:00~22:00

場 所: ユリックス会議室 1

参加者: 荒巻*, 篠原*, 高尾(辰), 高木, 濱島, 町田*, 松井, 宮田*, 與古光*

(50音順、敬称略)

職 員: 小野田*, 平野, 角田, 石橋, 阪本

計 14 名

* リモート(Zoom)参加者

※4月から引き続き、Web 会議サービスの ”Zoom” を利用して行った。

1. 今後のウォッチングの実施について

1-1. 観望会における新型コロナウイルス感染症対策

アイピースを介した、眼からのウイルス感染の可能性が懸念されている(アイピースを直接消毒することは避けたい)。先月に引き続き、今後のウォッチング実施の方法について話し合いを行い、以下のような提案があった。

- 1) 参加者全員にメガネを貸し出す(宮田)
- 2) アイピースの上にフィルムケースのようなものをかぶせ、参加者の眼とアイピースが直接触れないようにする。但し、利用の都度、フィルムケースをアルコール消毒する必要がある(篠原)
- 3) 望遠鏡本体のアイピース部分に、土台を設置し、透明フィルムを利用の都度入れ替えてフィルム越しに見てもらう(濱島)
- 4) 紙コップの底に穴を開け、望遠鏡を覗く際に各自アイピースの上から被せてもらい、アイピースに触れないように紙コップ越しに見てもらう。育苗用のポットを使っても良いかもしれない(宮田)

以上のうち、まずは4番目の案のテストを行う予定。一方で、そもそも眼からのウイルス感染の可能性はあるのか、今後も情報を精査し、他館の様子も見ながら検討、話し合いを行っていく必要がある。

1-2. 8月22日のウォッチングでのプラネタリウム解説の有無

一般のプラネタリウム収容人数を最大20人としている(7月31日現在)。観望会でのプラネタリウム解説の実施の有無について、話し合いを行った。

角田: 本来、市などの規定では定員の半分(40人)は収容して良いことになっているが、自主的に定員を20人としている。観望会当日は、40人限定でプラネタリウム解説をしても良いのでは。

宮田: 先日の部分日食ウォッチングは150人ほどの参加があった。参加者が密集してしまう可能

性もあり、やや厳しいのでは。

篠原：先着40人限定で、整理券を配布するのはどうか。

宮田：限定とすると、プラネタリウム解説に参加できなかった人が残念に思うのでは。

篠原：中止にするのは簡単ではあるが、ウォッチングでも可能な範囲で、自分たちができることを行うのがいいのではないか。

→先着40人限定とし、当日18時30分から整理券を配布することに決定。

1-3. 8月22日のウォッチングの望遠鏡の並べ方

当日、木星と土星を見てもらう予定。参加者を密集させないよう、どのように望遠鏡を配置するか。

角田：人々の滞留(長時間滞在)を避けたい。通常は木星観望の列、土星観望の列、など天体によって列を分けているが、今回は列を1つにしてみてもいい。一度にいくつか天体を見てもいい、見終わったら帰ってもらう。列自体は長くなるが、来場者の滞在時間は短く出来るのでは。

今後のサロンでも、観望会のやり方について話し合いを行う。

2. ほしぞら合宿について

先月から、合宿実施の可否、開催時期について検討している。5月のほしぞらサロンでは、9月連休ごろ開催の提案があった(篠原さんより)。現在は、感染の状況も鑑み、実施可否と時期について、8月末あたりを目処に決定したい。

3. クリスマス番組の制作について

例年、ボランティアとクリスマス番組の制作を行っている(昨年の制作はなし)。今年は番組の制作を行うか。

濱島：新型コロナウイルス感染症、とくに冬頃は流行の第二波が懸念される。今年については、番組制作は難しいのでは。

角田：番組制作という形態だけに拘らず、クリスマス時期の活動できたらと思う。工作教室など、実現可能なアイデアがあれば提案いただきたい。過去、オーロラ投影機を製作した。今年は来場者へ向けた缶バッジ製作など良いのでは。アイデアがあれば、掲示板などでも記入いただきたい。

4. 今年度のほしぞら友の会について

今年度は中止。

次回のほしぞらサロンは、8月1日(土)です。